

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年7月30日現在

今月の重点活動

「岐阜えだまめ」収穫体験が盛大に開催される（岐阜市）

JAぎふ・えだまめ部会では、消費者に「岐阜えだまめ」を広く知ってもらうため、7月17日に収穫体験と試食会を開催した。

当日は、昨年を大きく上回る約750名の参加があり、ピーク時には順番待ちの行列ができるほどであった。今年で3年目となり、アンケート結果では、クリーン農業の認知度が47%と高まってきている。

農業普及課では、部会活動の支援を行うとともに併せてぎふクリーン農業(防虫ネット栽培)の紹介を行い、安全・安心な「岐阜えだまめ」をPRした。

収穫体験とアンケート風景



主要農作物の生産振興

ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

夏芽の統一目揃え会開催 羽島産アスパラガス夏芽出荷ピーク

JAぎふ羽島アスパラガス部会は会員12名で約50a。

6月30日に「夏芽」の目揃え会が行われた。目揃え会では、部長から「生産者が一丸となって品質の良いアスパラガスを届けよう」と挨拶があった。農業普及課からは、収穫中の肥培管理から病害虫防除等について周知徹底を図った。

現在、日量600束で、出荷がピークを迎えている。天候不順で生育が遅れ気味だったが、現在は生育順調、品質良好である。

苗定植から5ヶ月目、生育順調

新規にハウスを増設した24a分は、苗を定植してから5ヶ月が経過し、順調に生育している。

いちご

健苗育苗のため、気を抜けない管理が続く（全域 7/15現在）

新規作付地の順調な生育状況
ほぼ採苗完了、ランナー切りも早いところで完了（平年並）。気温の上昇とともに炭そ病の徹底防除を行うなど日々気を抜けない管理が続いている。うどんこ病の発生は6月と比べると少なくなっている。

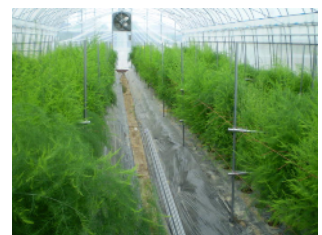
農業普及課の提案で、これからの岐阜地域のいちご産地のあり方を考えるため、JA職員や普及指導員が共販生産者全員にアンケート調査を行っている。

えだまめ 露地栽培の出荷が本格化（岐阜市）

トンネル栽培と露地栽培との端境期で、8月上旬からは露地栽培の出荷が本格化しピークとなる見込みである。農業普及課では今年発生が多いカミシ類やアザシヒメカミシの防除対策について重点指導をしている。



アスパラ目揃え会



えだまめ選果場

にんじん 春夏にんじんから冬にんじんへ（各務原市）

春夏にんじんの出荷が終了。販売結果、販売量2,030t（前年比86%）となった。7月21日に冬にんじん栽培講習会（にんじん部会主催）が実施され、高温干ばつが予想される中、岐阜中流用水の活用による計画生産・計画出荷の徹底を促した。

ブロッコリー 今年度産作付面積10haを超える（岐阜、本巣、各務原、山県）

平成22年度産は、10.8ha（前年比169%）までに面積拡大される。それに伴い、苗生産を管内花き生産者への外部委託や、ブロッコリー生産者でもある営農組織等が自ら行うこととなった。今後は8月上旬から播種、9月上中旬から定植の予定である。

にんにく 各地で出荷開始（岐阜市、本巣市、山県市）

収穫後約3週間～1ヶ月の乾燥行程を経て、7月上旬より市場、直売、加工業者へ出

荷している。目揃え会では、次期作のほ場準備について指導を行った。

かき **生理落果多い！カメムシ多い！（全域）**

管内の柿産地では、6月～7月にかけて生理落果が平年に比べ多い傾向である。開花期の天候不順、梅雨時期の日照不足が原因と推測される。また、カメムシの予察灯への誘殺が急激に増加しており、生産者への注意と追加防除対応できるように指導している。

学習園活動開始（瑞穂市）

瑞穂市柿振興会では、担い手育成の一貫として、普及指導員の提案で新規栽培者や女性部の会員が自由に管理作業等学習できるほ場「学習園」が設置された。7月12日に第1回目の研修会（摘果）が開催された。14人の会員が年3～4回の実地学習を行う予定としている。特別講師として地域のベテラン柿栽培者3人が実施指導を行う体制が取るなど振興会の意識変化による産地活性化を期待している。



参加者の実地学習（摘果）

なし **まもなく出荷！**

管内の各振興会では、収穫期を1カ月後に控え、販売推進に向けた生育調査、着果量調査を行った。7月15日現在ジベ処理をした早出しの果実で3～4日程度遅れている。

8月に入り、各振興会で目揃え会が次々に開催されるが、6日に真正梨振興会が先陣を切って「幸水」の出荷が始まる。盆前出荷は少なくなりそう。

担い手の育成・確保

新規就農者 **いちご新規就農者支援状況** いちご新人研修会

新人（就農後5年以内）を対象に、岐阜地域いちご新人研修会を7月1日に開催した。第1回目は、育苗の適正管理についての研修会と農業技術センターでの育苗状況を視察した。また、栽培だけでなく経営技術についても支援を行うため、JAぎふから簿記記帳と経営診断の方法について説明を受けた。



集落営農組織等 **小藪営農組合 法人セミナー開催（羽島市）**

7月25日に羽島市小藪営農組合で法人の設立に向けた学習会が農業会議等の支援により開催された。

当組合は、今年度内の法人化を目指しており、農業普及課から、既に集落営農で法人化した組織の紹介等の支援を行った。



法人セミナー開催風景

女性農業経営アドバイザー **スキルアップ研修会の開催**

7月5日に「改正農地制度」と「納税猶予制度」を学ぶため、岐阜ブロック女性農業経営アドバイザーが研修会を企画した。

研修会では、家族経営の中で身近な法律で関心も深く、講師への質問も活発に出された。

スキルアップ研修会

若い女性農業者 **若葉マーク農業女性研修会の開催** 若葉マーク研修会

7月16日に子育て世代の若い女性農業者へ、農業及び農家生活の知恵と技術の習得、さらには仲間作りを目的に研修会を開催した。講師の女性農業経営アドバイザーから、農業経営を支えるパートナーの役割についてアドバイスを受け、活発な意見交換がなされた。



地域の動き等

JAぎふ柿担当職員講習会を開催（岐阜市）

地域のかき生産者に対する現地指導能力の向上のため、JA職員に対して栽培管理技術の習得をねらいに現地講習会を7月23日に開催した。当日は9名の担当者が参加し、摘果・新梢管理等について学んだ。

鳥獣害対策のための集落点検の実施（本巣市法林寺地区）

当地区は、柿園へのイノシシ、シカ、カラス等の被害が多く、今年度、県のモデル事業の採択を受け、放任柿園解消を進めている「法林寺富有柿保存会」が主体となって7月6日に集落点検を実施した。今後、この結果をもとに被害防止対策を進めていく。